

令和8年度「全国学力・学習状況調査」の分析結果と改善策

札幌市立栄西小学校

令和8年4月23日（木）に全国一斉に行われました「令和8年度 全国学力・学習状況調査」の本校の結果を基に、調査における成果と課題、そして改善の方向を考察しましたので、お知らせいたします。

なお、調査教科は、国語と算数を対象に、「知識」や「活用」などに関する問題が出題されました。

今回の調査における成果と課題

改善の方向

小学校 国語

<成果>

- 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。
- 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。

<課題>

- 理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができる。
- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。
- 文や資料を引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。

☆具体的な相手や目的を一層意識できるような活動、また最初に提示した内容と結論がずれていないかを確認したりするような活動の充実

☆同音異義語の語句や漢字を調べ、その意味を比べる活動を通して、字義の理解や漢字を使うことのよさを実感できる活動の充実

☆学級全体で引用する目的や引用するとき大事なことについてまとめ、児童が適宜、振り返ることができる活動の充実

小学校 算数

<成果>

- 基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができる。
- 小数が整数と同じ十進位取り記数法の仕組みで表されていることを理解し、条件に合う小数をつくることができる。

<課題>

- 立方体の体積の計算による求め方について理解している。
- 二つの表から、集計に誤りのある項目を見付け、その根拠を表の中の数と言葉を用いて記述できる。
- 百分率で表された割合と比較量から、基準量を求めることができる。

☆長方形や正方形の面積の求め方を基にして、直方体や立方体の体積の求め方を類推的に考え、体積の計算による求め方を考察する活動の充実

☆誤りの有無の根拠を他者に適切に説明する際に、表のどの部分を見て判断したのかを指し示したり、表の数値を用いたりできるようにする活動の充実

☆言葉の式だけでなく、数直線などの図を用いて、児童が基準量、比較量、割合の数量関係を捉えることができるようにする活動の充実

児童質問紙の結果から（全国平均と比較し、肯定的回答の多い項目、少ない項目を抽出）

- 「先生はよいところを認めてくれる」と答えた児童の割合は、全国平均よりも高い。
- 「英語の勉強は好き」と答えた児童の割合は、15ポイント以上高い。
- 「平日、4時間以上スマホやゲーム機を使用する」と答えた児童の割合が、25ポイント以上高い。
- 「平日、1日当たり1時間以上勉強する」と答えた児童の割合が、10ポイント以上低い。
- 「算数の勉強は得意、好き」と答えた児童の割合が、それぞれ10ポイント以上低い。